

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-142	A-181	24-033	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Alcoholic beverage types consumed by population subgroups in the United States: Implications for alcohol policy to address health 米国の人口サブグループが消費するアルコール飲料の種類：健康に対処するためのアルコール政策への示唆			
執筆者			
Cook WK, Kerr WC, Zhu Y, Bright S, Buckley C, Kilian C, Lasserre AM, Llamosas-Falcón L, Mulia N, Rehm J, Probst C.			
掲載誌			
Drug Alcohol Rev. 2024 May;43(4):946-955. doi: 10.1111/dar.13819.			
キーワード		PMID	
アルコール政策、アルコール飲料の種類、健康格差、大量飲酒		38316528	
要旨			
背景： アルコール関連の健康リスクが他のグループよりも高い人口統計学的サブグループ（主に社会経済的地位の低い人、人種的/民族的マイノリティの地位の人、飲酒レベルの高い人など）が消費する可能性の高いアルコール飲料の種類を特定することを目的とした。			
方法： アルコールおよび関連疾患に関する全国疫学調査第2期（2004～2005年）および第3期（2012～2013年）の米国成人飲酒者の全国代表サンプル（分析対象N=37,657）を用いて、フラクショナル・ロジック・モデリングを行った。調査結果は、ビール、ワイン、蒸留酒、クーラー（ワイン/モルト/リキュールベースのクーラー、ハードレモネード、ハードサイダー、アルコールとミキサーのパッケージカクテル）として消費された純アルコールの割合であった。			
結果： 低学歴、低・中所得の成人はビール、リカー、クーラーを飲む傾向が強かったが、4年制大学/上級学位取得者、高所得者はワインを好んだ。アジア系成人を除くと、人種的/民族的マイノリティ成人は、白人成人に比べ、ヒスパニック系はビール、黒人は蒸留酒を飲む傾向が強かった。大量または非常に大量の飲酒者は、少量の飲酒者に比べて蒸留酒とビールを消費する傾向が高く、ワイン(およびクーラー)を消費する傾向は低かった。大量または非常に大量の飲酒者は、飲酒者全体の10%未満であったが、成人全員が消費するビール、蒸留酒、クーラーの総量の半分以上を消費していた。			
結論： 社会経済的地位の低い人、人種的・民族的マイノリティの人、飲酒量が多い人は、蒸留酒とビールを好む傾向にあった。酒税、販売、マーケティングは飲料別に特化したものが多いため、特にこれらのプロフィールを持つ人々の間で飲酒の消費を減らすための的を絞ったアプローチが必要である。			